

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|---|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 1 | 基本理念、事業所方針に添ったケアと、事業所とユニット目標に対して全スタッフが共通意識を持ち、ケアに取り組む事が不十分な為、ケアのばらつきがあり、理念方針に沿ったケアが統一出来ていない。またそれらを十分に共有する事が出来て学べる時間も十分に確保されていない。 | 全職員が、共通意識を持ち、ほほえみの里若林のケア方針に添って、入居者様の支援が出来るようになる。その方針は目的が今後も継続して維持できる環境を確保する事が出来るようになる。 | 新人職員、オリエンテーション時当施設の理念と方針についての大切さと意味を説明し、ケアに入る前に理解した上で入居者様と接するようにする。現在、在籍中の職員にはユニット会議と個人面談を活用し意識統一と確認、日々のケアと入居者様の生活より、細かい事例を踏まえて行っていく。 | 2ヶ月 |
| 2 | 33 | 入居者様の重度化が徐々に見られ始める。心身状況の低下を含み。(特に開所時よりご利用を頂いている方)。要介護状態の悪化と認知症の進行が今後予想される中、介護職員、看護職員の、身体介護と認知症の柔軟かつ適正な対応が図れる様に、全体のレベルアップが必要となる。 | 入居者様が重度化をした際にも、介護施設としてのスキルアップを図り、柔軟な対応が可能なグループホームを目指す。看取りを行わない方針は変わらないが、現在のハード面とソフト面のレベルアップを図り、可能な限り当施設での生活を長く送れるような環境を作る。 | 身体介護と認知症に関する知識と技術を始め、スタッフのレベルアップを図れる様にする。法人内の勉強会へ積極的な参加を促し参加できる体制を作る。施設外研修にはスタッフのレベルに応じた研修へ参加をさせ、参加したい内容も希望に応じて参加出来る様にする。 | 6ヶ月 |
| 3 | 4 | 地域との関わりの中で、徐々に交流機会が増えてきてはいるが、まだまだ地域に根付いた施設というには不十分である。地域との交流と、地域の中で活躍出来る場所と時間を増やしていく必要がある。運営推進会議での内容を改善していく必要がある。 | 地域との交流機会を増やし、入居者様と地域と施設が、お互いにとって良い関係性を築いていきたい。地域の方が介護や認知症に関する事で困った時には気軽に足を運ぶ事が出来て、相談できる場所となり、施設や入居者様が地域と関わり様々な事で交流できる関係作りをしていきたい。 | 現在実行出来ている地域参加(喫茶、各イベント等への参加など)は引き続き継続をしていく。新たな取り組みとして毎月認知症カフェの開催(包括との協力)。自治区の活動の消防訓練、清掃活動などへの参加を可能な場合は追加していく。近隣のスーパーなどへ買い物等に出掛けた際は、積極的に挨拶をして交流を図る意識を持つ。運営推進会議の内容を職員、家族地域へ報告をして参加者だけの情報にならない様にする。 | 6ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。